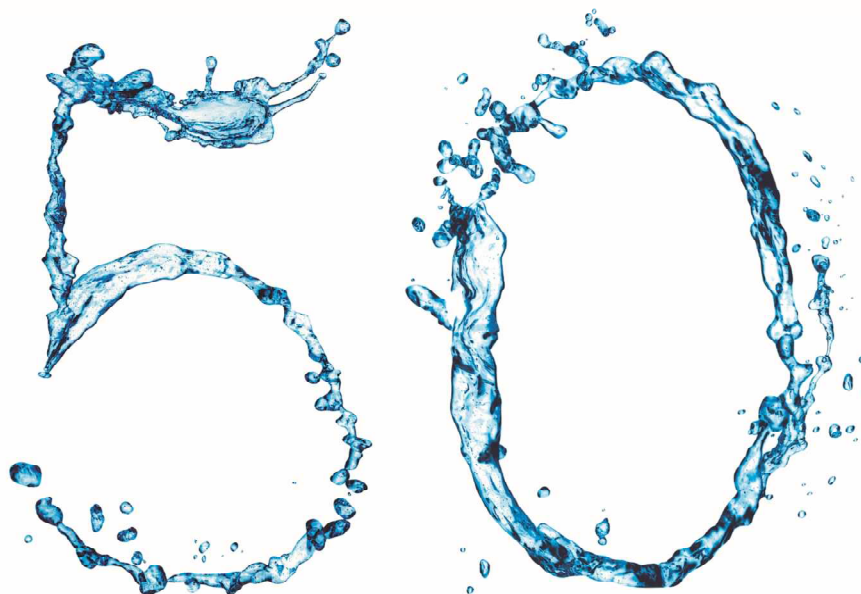


滋賀県企業庁 50年のあゆみ



滋賀県企業庁

安心・安全な水を 供給し続けて50年。

昭和42年に湖南工業団地に必要な工業用水の確保をめざして創設した湖南工業用水道事業を振り出しに、昭和43年に企業庁の前身である滋賀県企業局を設置して、平成30年に50周年を迎えました。

現在は、工業用水道事業2事業と水道用水供給事業1事業を運営しています。

これまでの企業庁の歩みを振り返るとともに、長年の事業で培われてきた技術や経験を次世代に引き継ぎ、今後も信頼の水で地域の未来に貢献していきます。



目次

知事あいさつ	5
公営企業管理者あいさつ	6
グラビア	7
年表	15
第1章 企業庁50年のあゆみ	24
1. 工業用水道事業	25
2. 水道用水供給事業	29
第2章 建設事業のあゆみ	36
1. 工業用水道事業	37
2. 水道用水供給事業	46
第3章 経営のあゆみ	60
1. 水量の推移	61
2. 料金の推移	69
3. 経営状況	73
第4章 安全で安心な水を届けるために	82
1. 水質管理	83
2. アセットマネジメント計画	85
3. 耐震化・浸水対策	86
4. 危機管理対策	87
5. 広報の取り組み	96
6. 環境への配慮	98
資料編	100
公営企業管理者および職員数	101
主な建設工事と事業費	103
供給実績の推移	113

あいさつ



滋賀県知事

三日月 大道

琵琶湖は、近畿1450万人の生活や産業を支える水源のみならず、治水上または利水上重要な役割を担っているとともに、貴重な自然環境および水産資源の宝庫として、その恩恵を私たちに与えてくれています。

本県は古来より交通の要衝として栄え、昭和30年代後半には名神高速道路や東海道新幹線等の幹線交通網の整備がいち早く整い、また京阪神や中京に近い等立地条件に恵まれたため、企業立地が進み、急速に工業化が進展してきました。

県ではこうした動向に合わせて、計画的な工業開発を進めるため、昭和42年に湖南工業用水道の建設を手始めに整備を進め、現在は水道用水供給事業を1事業、工業用水道事業を2事業経営しています。

さて、本年は平成最後の年であり、新元号に改まる最初の年として大きな節目を迎えます。本県におきましても、「変わる滋賀 続く幸せ」を基本理念に据えた新たな基本構想の実現に向けて取組を始める年度となります。

昨年からは「健康しが」をキーワードとして、私たち「人の健康」、地域や経済などの「社会の健康」、琵琶湖や山々も含めた「自然の健康」の3つの側面で施策を展開しています。

今年はさらにこれを一段加速させ、「世界」をキーワードに、「世界に開かれ、世界とつながり、世界から選ばれる」滋賀を創ってまいりたいと思います。

未来と世界をしっかりと見据えて、人口減少や長寿化、本格的な多文化共生社会の到来など、様々な変化を前向きに捉えながら、誰もが新しい豊かさを感じ、自分らしく生きることができ、滋賀を目指して県民の皆様とともに取り組んでまいります。

現在の本県の水道事業を取り巻く現状は大変厳しく、人口減少等による水需要の減少、水道施設の老朽化、次世代への技術継承問題など、さまざまな課題に直面しています。

県としては、このような水道事業を取り巻く環境の変化にも的確に対応し、県民の豊かな生活と地域の発展のため、将来にわたって安全で安心な水の安定的な供給に向けて今後も取組を進めてまいります。

結びに、この50周年の節目を期に、企業庁が信頼の水を通じて、滋賀県の未来に貢献していくことを改めて県民の皆様にお誓い申し上げ、あいさつとさせていただきます。

滋賀県企業庁 50周年を迎えて



公営企業管理者
桂田 俊夫

滋賀県企業庁は、昭和42年に湖南工業団地に必要な水の確保を目指して実施した旧湖南工業用水道事業を振り出しに、昭和43年4月1日に当庁の前身である滋賀県企業局を設置して以来、今年度で50周年を迎えることになりました。

企業庁では、豊富で安定した水源である琵琶湖や、その流入河川である野洲川を水道の水源として、工業用水道事業および水道用水供給事業を行っています。

工業用水道事業は、高度経済成長期の急速な工業化に呼応して、調和のとれた計画的な工業開発を進めるため、基盤施設である工業用水道を計画し、昭和42年度に湖南工業用水道の建設に着手したのが、本県の工業用水道事業の最初であります。現在は南部工業用水道事業、彦根工業用水道事業の2事業を経営し、県内企業の生産活動を支えています。

水道用水供給事業は、昭和40年代からの都市化の進展による人口増加や生活様式の近代化により、水需要が増大したことから、用水の安定確保を図るために市町から強い要望をいただき、県事業として発足いたしました。本事業

は、琵琶湖や野洲川を水源とし、現在では湖南水道用水供給事業として、県内8市2町に給水を行っています。

さて、水道事業を取り巻く環境は大きく変わり、人口減少等による水需要の減少、老朽化する施設の維持管理など、これまでにない課題に直面しており、より一層経営に重点を置いた事業の推進が必要となっております。

企業庁では、平成23年3月に策定いたしました10か年計画の「滋賀県企業庁水道ビジョン」において、「信頼の水で、地域の未来に貢献します。」との基本理念のもと、安全で安心な水を安定して供給しているところであり、こうした取組を通して今後も県民生活と地域経済の発展に寄与していく所存であります。

本書は、企業庁の50周年を契機にこれまでの歩みを振り返り、その取組を記録として収録したものです。広く関係される方々の御参考にいただければ幸いです。

これまで、関係機関ならびに関係各位からいただいた御支援に感謝を申し上げ、今後とも一層の御指導と御協力を心よりお願い申し上げます。

吉川浄水場



吉川浄水場外観



吉川浄水場管理本館



吉川浄水場水質試験棟



集中監視制御システム

吉川浄水場



水質分析の様子



吉川自家発電棟

馬渕浄水場



馬渕浄水場外観



馬渕浄水場中央管理棟

馬淵浄水場



馬淵浄水場中央監視システム



瓶割山調整池

水口浄水場

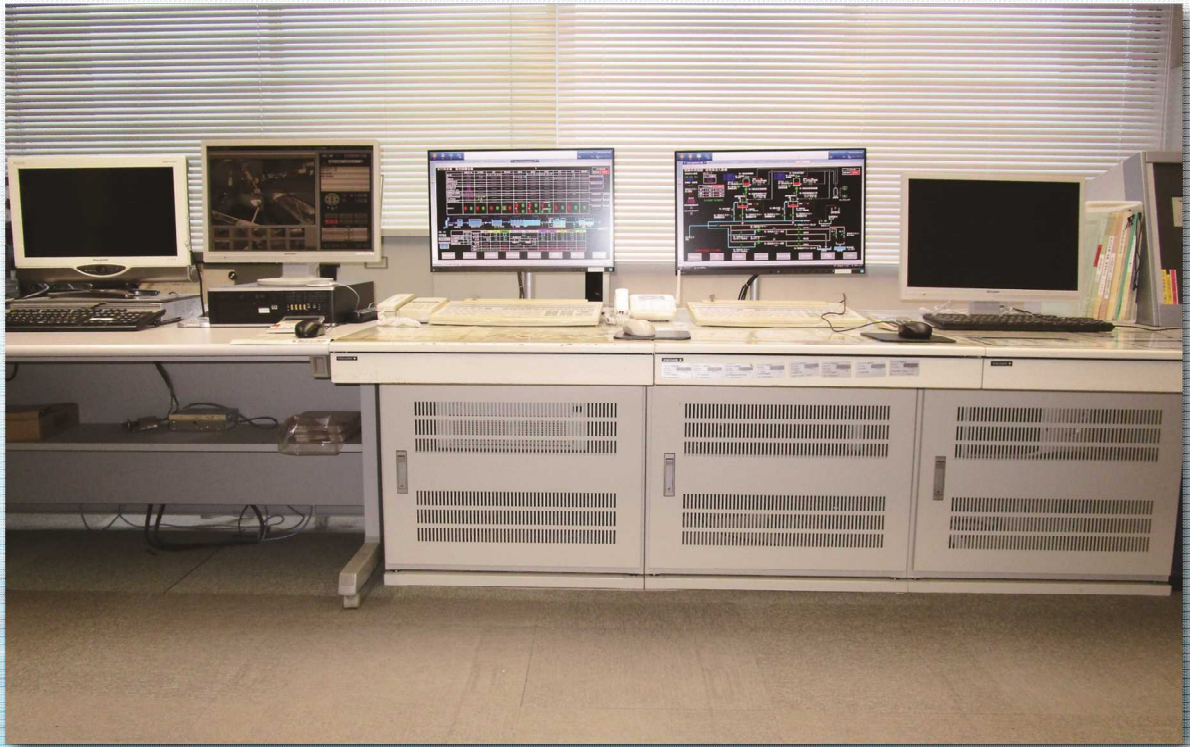


水口浄水場外観



水口浄水場中央管理棟

水口浄水場



水口浄水場中央監視システム



朝国活性炭注入棟

彦根浄水場



彦根浄水場外観



低区配水池